

令和 2 年 7 月 11 日現在

機関番号：32633

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2018～2019

課題番号：18H06378・19K21459

研究課題名（和文）タンザニアの看護職に対する早期必須新生児ケア普及に向けた教育活動促進のための調査

研究課題名（英文）Research for Promotion and Implementation of Early Essential Newborn Care Training in Tanzania

研究代表者

福富 理佳（FUKUTOMI, Rika）

聖路加国際大学・大学院看護学研究科・助教

研究者番号：60826329

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,100,000円

研究成果の概要（和文）：タンザニアの看護職5名にグループインタビューを行った。早期必須新生児ケア（以下、EENC）の教育活動に対する看護職の認識として、長時間の通勤による疲労や多忙な業務など普段の業務に対する負担感、低賃金・低報酬への不満、普段の業務に追加されるチーム活動を強いられることへの不満などの思いによる活動意欲の不足、そして強く根づいた支援国への依存心が自発的な活動の障壁となっていることが明らかとなった。病院の管理部との環境調整を試みたが、業務や賃金改善については困難である。よって、タンザニアの組織文化的、医療背景に根ざしたプログラムの修正を検討し、タンザニア版EENCの有効性の検証を実施している。

研究成果の学術的意義や社会的意義

EENC実践の普及活動を実際に行っている中心となるタンザニアの看護職5名において、負担感、不満、活動意欲の不足が生じていることが明らかになった。タンザニア以外の各国においても、EENC実践の普及活動の停滞がみられている状況があり、その背景には共通するこのような現場の認識があることが示唆された。よって、病院の管理部への業務・待遇改善はもとより、EENCプログラム自体の修正が必要なことから、タンザニアの組織文化的、医療背景に根ざしたプログラム修正の検討につなげている。文化的背景に合ったEENCの教育プログラムの確立をめざすことは、他の導入国より効果的な教育活動につながる知見を得ることができる。

研究成果の概要（英文）：A group interview was conducted with 5 nurses in Tanzania. Per the interview, nursing staff's challenges with implementing Early Essential Newborn Care (EENC) training is as follows: (1) feeling burdened by routine work, fatigue, and long commutes; (2) dissatisfaction with low wages and low remuneration; (3) as the training is in addition to normal work, there is a lack of motivation for activities such as mandatory team activities and, at the same time, deep-rooted dependence on support countries also proves a barrier to voluntary activities. Based on this feedback, we tried to make changes with the administration at the hospital but improvements in work and wages was difficult. Therefore, we are examining the modification of EENC programs to weave in more naturally with the existing cultural and medical profile of Tanzania.

研究分野：看護学

キーワード：EENC 新生児看護 看護実践教育 実装研究 助産教育 タンザニア

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

2016年の新生児死亡数は290万人を数え、5歳未満の子どもにおけるその割合はおよそ46%に上り、新生児死亡の割合は今後も増大することが予測されている。これまで、新生児の生命、健康等への対策は重要視されてこなかったが、新生児死亡の世界的動向が明らかとなってからその重要性の認識が進み、ミレニアム開発目標に続くグローバル目標である持続可能な開発目標(SDGs)では、2030年までに新生児死亡率の引き下げが掲げられた。世界全体の新生児死亡の8割は南アジアおよびサブサハラアフリカの国々で起こっており、タンザニア連合共和国(以下、タンザニア)もその一つである。

新生児死亡への対策として、2014年以降、世界保健機構西太平洋地域事務局と国連児童基金は新生児死亡率の高い西太平洋地域の主な国々でEENCを展開している。EENCは、エビデンスに基づいて構成されたケアで、出産直後の新生児へのケアの質を向上し、新生児の3大死因を防ぐことを目標としている。タンザニアにおいては2017年からEENCの普及に開始されている。

2014年以降2年間の調査で実態報告がまとめられ、EENCのプログラムで推奨される各施設のセルフモニタリング実施率もわずか6%であり、各施設でケアの普及やセルフモニタリングの核となるチームの形成とその活動が行われていないことを示唆している。しかしこれまで、EENCでのチーム形成とその活動の推進における課題解決の方略は明らかになっていない。その理由の一つは、先行研究が主に、開発途上国におけるガイドライン等の実践状況についての一時点での調査で、実践のプロセスやそれに対する要因の探索に関する知見の蓄積が十分でないためである。

これまでにタンザニアでのEENC研究を実施し、1)看護職(7名)がチーム形成し臨床現場でのEENCの実践と普及を行うための教育活動のプロセスの記述、2)EENCの適応における現場の社会的な要因の解明、3)現場助産師のEENCの実践変化の評価を行った。研究結果からは、EENCの教育活動やプログラム展開が滞り、その要因としてタンザニアにおける施設での継続教育や実地トレーニングの習慣のなさ、チーム活動に不慣れな文化的背景の存在が明らかになった。すなわち、タンザニアにおけるEENCの普及と定着に向けた教育活動には、個々の助産師が基本的な新生児ケアのルーチンを習得することに加えて、現場での継続教育、リーダーシップの育成、利害関係者を含めたチームづくりの包括的アプローチが必要である。しかし、これまでこのようなタンザニアの社会環境・文化的背景を十分考慮したチーム形成に焦点を当てた研究はない。

2. 研究の目的

本研究の目的は以下とする。

(1) EENC 普及を目指すチームメンバーの教育活動に対する意欲、認識、ニーズについて明らかにする(目的)

(2) EENC の教育活動の環境調整を行い、その有効性と有用性について検証する(目的)

3. 研究の方法

タンザニアにおいて、EENC 実践の普及活動に取り組んでいる看護職7名を対象とした半構造化インタビューを実施し、EENC 普及のための当該施設での教育活動における課題を明らかにする(目的)。さらに、インタビュー調査で明らかになった結果から教育活動における調整を行い、チームの活動頻度や教育内容を記述する(目的)。また、調査間隔を12週間として、EENC プログラム付属のチェックリストを用いて実践を観察し、実践率とその経時的変化で、チームの教育活動の有効性と有用性を評価する(目的)。

4. 研究成果

日本およびタンザニアでの研究倫理審査の承認を得て、2019年9月に半構造化インタビュー調査を実施した。対象者7名のうち、5名の同意を得て実施した。2017年当初からタンザニアのEENCの普及活動に取り組んできた中心的なメンバーである。インタビュー結果より、EENCの普及活動に対して、長時間の通勤による疲労や多忙な業務など普段の業務に対する負担感、低賃金・低報酬(活動は無償)への不満、普段の業務に追加されるチーム活動を強いられることへの不満などの思いが、活動意欲の不足となり、また強く根づいた支援国への依存心が自発的な活動の障壁となっていることが明らかとなった。(目的)

実際に、断続的な支援国によるEENCトレーニングが退いた後のEENCの実践評価では、EENC導入後1年6ヶ月で実践率は低下し、臨床現場でのケアの定着に至っていなかったことが明らかとなった。(目的)

これらの結果より、現在EENC実践の普及活動が行われていないことで、目的にあるチームの教育活動の有効性と有用性の評価が困難であることから、目的の一部研究は実施できていない。

以上の研究結果をもとに、チームメンバーである看護職7名および、産科病棟の看護師長とともに話し合いの場を設け、EENCのプログラム内容の変更を検討した(タンザニア版EENCの作成)

EENCの従来のプログラム展開と変更対象について図1に示す。出産・新生児ケアに関わる医療者にファシリテーター養成のための2日間のセミナーを行い、参加者はルーチンの正常分娩(第一呼吸なく蘇生を要する場面も含む)における新生児ケアを習得する(Module2)。セミナー参加者はEENCの実践・普及を目指すファシリテーターとしてチームを形成し、自施設において活動を行う(Module3)。質の高いルーチンケアが確立したところで、早産児に対するカンガルーケアの普及に移行し(Module4)、同様にチーム活動を行い(Module3)、さらに合併症児に対するより複雑なケアへと順に展開する(Module5)。四角の太線で囲った範囲が、本研究における修正の対象となる。

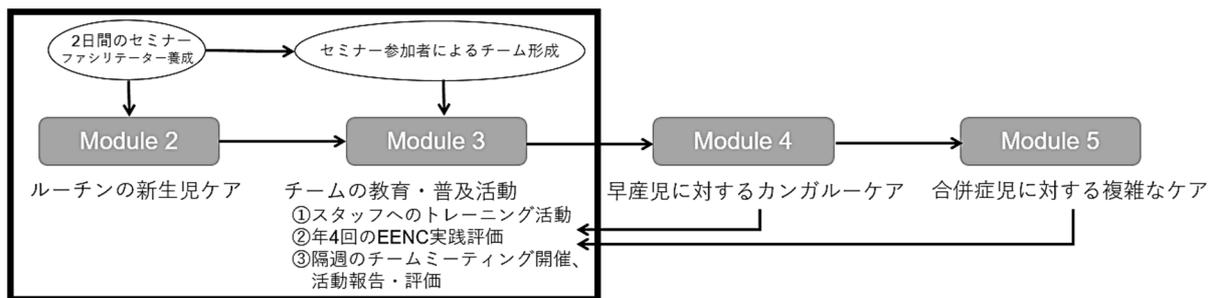


図1.

主な変更点を図2に示す。

- ・ **チーム活動に対する負担軽減の必要性**：ファシリテーター養成を中止し、全スタッフ対象のセミナー開催(変更点1)、セミナー全参加者によるチーム形成から希望者によるチーム形成(変更点3)、チームのみに委ねない教育・普及活動(変更点2・4)
- ・ **形式立ったトレーニング方法の転換の必要性**：OJTによる現場教育の実施(変更点2)
- ・ **チーム役割の変更の必要性**：現地協力者との協働によるEENCの実践評価とミーティングの実施(変更点4)

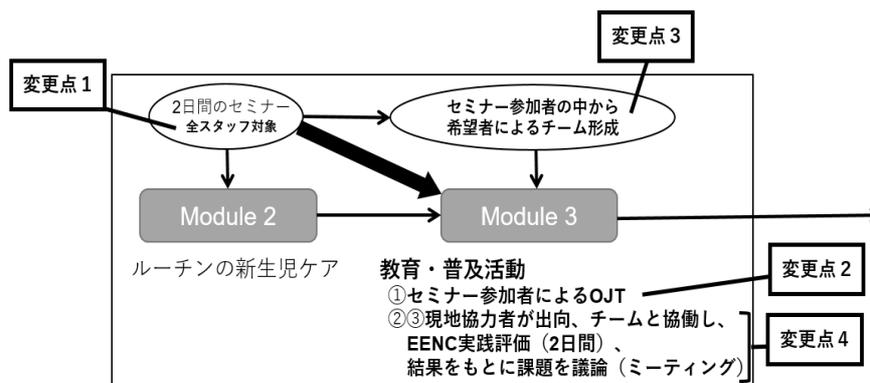


図2. タンザニア版EENCへの変更点：図1からの変更箇所を太字で示す。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Rika Fukutomi
2. 発表標題 The Twelve Weeks Process After Introducing Early Essential Newborn Care (EENC) and Practical Behavior Changes by Midwives
3. 学会等名 the 13th biennial ECSACON (East, Central and Southern Africa College of Nursing) scientific conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Rika Fukutomi
2. 発表標題 The gap between initial scheduled plans and actual action of Early Essential Newborn Care training in Tanzania: Voice of midwives
3. 学会等名 the International Confederation of Midwives (ICM) Africa Regional Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考